



足利市【栃木県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：146,796人 ■ 面積：178km²
■ 担当課：足利市教育委員会事務局 文化課（平成30年3月現在）



足利の歴史的・地理的特性を活かした文化財の総合的な把握を行うとともに、足利市の文化財を総合的に保存及び活用していくための考え方・方針等を定めたもので、個々の文化財だけでは捉えにくい足利の歴史文化の価値を市民とともに将来に渡り継承し、魅力的かつわかりやすく伝えていくための様々な取組みが推進できるような保存活用の仕組みづくりを検討していくものである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

足利の自然・地勢、街道・舟運、中世の足利、
織物産業、継承される祈りの形

課題

- ・文化財の価値の確実な継承
- ・歴史文化を活かしたまちづくりの推進
- ・歴史文化への誇りと愛着の醸成

保存活用方針

- ・文化財の一般公開の推進
- ・足利市独自の認定制度の制定
- ・公開施設やサービスの充実
- ・市民参加型の保存活用体制の構築

保存活用のための取り組み

文化財を活用した学校教育・生涯学習

小学校の授業で文化財関係施設を活用した昔の暮らしを知る学習や、出土品を活用した小中学生のための考古学教室などが開催されている。その他、行政や民間団体による各種歴史講座なども盛んに行われている。



文化財の公開（足利の文化財一斉公開の開催）

文化財を活用した魅力あるまちづくりを推進するため、市内の社寺等が所有する文化財を公開し、足利を訪れる方に本市の魅力を感じていただくとともに、市民にも再認識を促すことを目的に毎年11月に実施している。



歴史文化保存活用区域の整備の推進

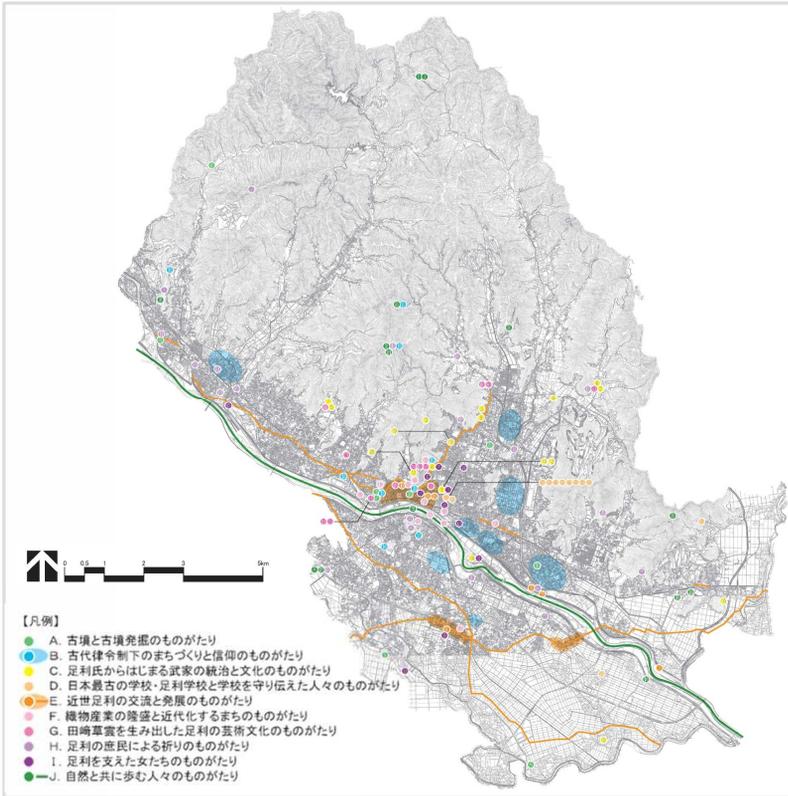
本市の歴史文化の核となる史跡のうち、日本遺産の足利学校、本堂が国宝となった鏝阿寺については積極的に一般公開が行われており、榊崎寺跡については、本格的な公開に向けて浄土庭園を中心に復元整備が進んでいる。



足利市文化財認定制度（仮称）

未指定・未登録の文化財も含め、足利の歴史文化を物語るすべての文化財について、関連文化財群の中で位置づけ、各文化財の持つ価値を明らかにするとともに、独自の認定制度を新設し認定を行うことで、広く所有者や市民、来訪者等への周知や理解を促進し、文化財の確実な保存と効果的な活用を行う。

関連文化財群



足利には多種多様な文化財が数多く存在するが、それらはこれまで単体で語られることが多かった。一方で、足利氏に関する遺跡や社寺など、あるテーマに沿って眺めるとその歴史や関連性についてより興味深く理解することができる。このように様々な文化財を、特定のテーマやストーリーのもとで関連性を有する一体のものとして捉え、複数の文化財によって明らかになる群としての価値を見つめなおそうというもの。

ストーリー

- ① 古墳と古墳発掘
- ② 古代律令制下のまちづくりと信仰
- ③ 足利氏から始まる武家の統治と文化
- ④ 日本最古の学校・足利学校と学校を守り伝えた人々
- ⑤ 近世足利の交流と発展
- ⑥ 織物産業の隆盛と近代化するまち
- ⑦ 田崎草堂を生み出した芸術文化
- ⑧ 足利の庶民による祈り
- ⑨ 足利を支えた女たち
- ⑩ 自然と共に歩む人々の営み

策定後の成果（見込まれる効果）

① 文化財一般公開の推進

毎秋、市内の指定文化財を中心に公開している「足利の文化財一斉公開」をはじめ、その他にも「足利の近代化遺産バスツアー」や「足利の庭園めぐりツアー」などが開催されている。



② 歴史文化を活かしたまちの活性化

足利を代表する文化財の足利学校や鑱阿寺を中心に、まちの賑わいを創出する様々な取り組みが行われ、織物で栄えた足利らしく、周辺の石畳通りでは「足利銘仙」を着てのまち歩きが人気となっている。



③ 文化財関係民間団体の活躍

昭和42年設立の足利市文化財愛護協会を筆頭に、足利文化財パトロール隊、文化財サポーターズ、足利庭園文化研究会等々、多くの文化財関係団体がわがまちの文化財の保護、調査研究、普及啓発等で活躍している。

